

■活動の概要■

地域防災活動を通じた近隣住民の顔が見える地域づくり

■活動の内容■

- ・この地域は、昭和50年代以降の転入世帯が約8割の住宅地で、過去の被災地域、危険個所を知らない世帯が大半でした。
- ・そこで、災害時における地域の課題に向き合い、毎年住民が一堂に会して交流を図りながら、防災訓練や防災マップの作製を行ってきました。
- ・炊き出し訓練、消火訓練、救援救護訓練など、メニューを変えながら毎年継続して取り組みを行っています。
- ・また、様々な状況を想定し訓練を実施しています。例えば、大雨災害時に指定避難所へ避難できないことを想定した、空き店舗を仮避難所と想定した避難訓練、夜間の避難を想定した訓練、ガス等が使用できないことを想定した薪と釜での炊き出し訓練などです。
- ・今後は要救援者の避難方法の検討や、地域の子どもから高齢者までが参加しやすい訓練を検討し、防災から地域支援へつながる取り組みを実施していきます。

■活動の様子■



危険個所を調査した後の防災マップ作り作業



毎年実施する心肺蘇生・AEDの訓練



災害時協力井戸の設置
(町内4カ所)



町内15カ所に屋外消火器設置



土砂災害想定での避難訓練の実施

■活動地域■

